

空木岳 (2864m) 日本百名山

2021年8月3日 Shiba

ロープウェイで一気に標高 2600m の千畳敷に達することで、中央アルプス中央部を貫く主稜線を雄大なパノラマを堪能しながらルンルン気分で縦走できると期待しての山行。しかし次々と現れる岩場や鎖場の実態はアルペンコースの大変厳しい山だった。誰しもがコロナは 1 年程で収まるであろうと思っていたに違いない。しかし思いもよらぬコロナ禍の 2 年目の夏。コース途中にある木曾殿山荘は収容人数を 1/4 に減らしての営業実施とのホームページでの案内に、心を躍らせてのチャレンジでもあった。

(8月2日)

前日は、京都からの高速バスで駒ヶ根駅近くにあるバスターミナルに到着。宿も駅の近くのビジネスホテルを予約していた。駅近くに宿を取ったのは、翌朝のロープウェイしらび平駅行のバスの混雑を警戒して始発バス停から乗り込めることを狙ったのであった。

駒ヶ根駅前 6:00 始発のバスに乗り組むが乗客は我々 4 人を含めわずかに 6 人。途中で数人の乗客を乗せ替の台バスセンターに到着すると様相が一変、バス 2 台程でも裁ききれないほどの人が並んでいる。ここには大きな駐車場があり、この先のロープウェイ駅へはマイカー規制があることと、やはり乗用車で来る人が圧倒的に多いということであろう。バスは並んでいる人の半数以上の人を積み残して出発。しらび平駅に着きバスを降りると、切符を買いにロープウェイ駅へ走りこむが、もうすでに駅の入り口の外まで人が並んでいる。この日の一番バスに乗り込んできたはずなのに。ええ～

なんで。今日は平日だが、休日の始発は 1 時間早い。この日は人出が多いため臨時便で裁いているに違いないと推測。でも本来の始発便時刻のロープウェイに乗ることができ一安心。

ロープウェイに乗ることわずか数分で標高 2600m の千畳敷へ。雲海の向こうには南アルプスの山々を一望できる。甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳、北岳、間ノ岳、示す写真には写っていないがついでに富士山も。

眺めに見とれて出発が 7:35 になってしまった。今日泊まる木曾殿山荘からは 16:30 までに到着してくださいと言われているのでそんなに時間余裕はない。稜線筋の極楽平から島田娘までは緩やかな稜線歩きでよそ見をしながら歩いていてもつまづくこともない。でも一気に高所に達したためか筆者自身は軽い高山病にかかったように感じた。獨沢大峰を越えると道も険しくなり鎖場も登場



千畳敷からの南アルプスの眺め



千畳敷カールの上にそそり立つ宝剣岳

してくる。檜尾岳には 12 時少し過ぎに到着。視線の下には工事中の檜尾避難小屋が見える。途中で出会った人がここで工事を請け負っている方で、工事が終わると管理人が常駐するようになるとのことであった。檜尾岳を過ぎ 2680m のピークあたりに差し掛かると道はまた険しくなりアルペンルートそのものになる。今回はコロナの影響でのトレーニング不足もあってだろうか、途中で 2 人が続けて足の故障、そのケアのために大幅にペースダウン。熊沢岳に着いたのが 15:30 頃。これでは山小屋指定の時間内の到着は到底無理なため、山小屋に到着が遅れる旨の連絡を入れる。結局木曾殿山荘に到着したのは 18:15 頃で、夕食を取ることはできたが時間が遅いということでアルコールは一切飲めず。アルコールなしでの疲れを癒すこともできぬままのむなしい山小屋泊となった。



目指す縦走路の先の空木岳

(8月3日)

6:05 に山小屋を出発。昨日の東川岳から山小屋まではザレ道の急坂を一気に下ったが、今度はいきなり急登である。最初はハイマツに囲まれた道であるがやがて険しい岩稜帯を伝って空木岳山頂に到着。天候は良好ながらもガスが多く、あまりいい写真は望めない。25 分程粘りようやく御岳山を写真に収めた。



空木岳山頂の標識

下りは空木平避難小屋経由の道を選択した。避難小屋に着くと、途中で道筋を一つ間違えて、歩きづらい方の道を辿ったことに気づいた。さらに下った所で出会った駒峰ヒュッテのボランティアの方によると、この山に関わる古い人の中には、自然のままを愛する人達がいて、親切心で掲げた案内板も邪魔なものだとして取り去ってしまう方達がいるとのことであった。



熊沢岳北稜で出会ったライチョウ

◆メンバー：K、S、他 2 人

◆コース：(8月2日) 千畳敷 7:35～極楽平～島田娘～檜尾岳 12:15～熊沢岳～東川岳～木曾殿山荘 18:15 (8月3日) 木曾殿山荘 6:05～空木岳～空木平避難小屋～ヨナ沢の頭～迷い尾根入口～池山～林道終点～スキー場 18:15

◆所要時間／歩行時間：(8月2日) 10時間 40分／9時間 20分、(8月3日) 12時間 10分／10時間 10分